

性的少数者に関する医療機関向けアンケート 結果

1 目的

本市では令和元年6月から、同性同士のパートナー関係を婚姻関係に準ずるものと行政が受け止める「宮崎市パートナーシップ宣誓制度」を開始いたしました。

制度を運用する中で、制度利用者から、医療機関での病状の説明等において、同性パートナーを親族と同様の取扱いとして欲しいとの要望をお聴きしているところです。

本市といたしましては、当事者に寄り添うべく、今後、医療機関においてご配慮いただけるよう、まずは地域の医療現場の現状を把握するため、標記アンケート調査を実施いたしました。

2 期間

令和元年11月29日（金）～12月20日（金）

3 回答数

375医療機関（宮崎市・国富町・綾町）に送付し、162医療機関の回答を得た（43.2%）。

4 この調査から分かること

（1）「研修に関すること」について

研修を行っている医療機関は2機関のみであったが、研修会を実施したいと考えている医療機関は51機関であった。研修をやりたくても「単独での実施が困難」や「研修の機会がない」との意見もあり、医療機関向けの研修会や、医療機関への講師派遣などのニーズが明らかとなった。

（2）「トランスジェンダーの方への対応」について

トランスジェンダーの方について、診察や診療に関する相談を受けたことのある医療機関は、43.8%であった。

受付で呼ぶ際の呼び方については、苗字のみと受付番号等の数字を合わせた割合が、全体で37.0%であった。また、診察又は診療に関する相談を受けたことのある医療機関では、苗字のみや受付番号等の数字で呼ぶ割合が高く、実際に診療等で接する機会があることで、配慮が進むことが分かる。

通称名の使用では、56.0%が使用できると回答したが、診療や相談の有無に関わらず、通称名の使用できる割合には大きな差はみられなかった。また、本人の意向に配慮したいという意見が多かった。

健康保険証の「性別の裏面記載」及び「通称名の使用」が可能であることをスタッフ間で情報共有しているかについては、どちらも10%未満であった。

（3）「家族等への病状説明、手術の同意等」について

「病状説明等」における、同性パートナーの同席を許可している医療機関は46.9%となっており、その範囲は友人・知人や地区の方など、本人の希望により広範囲に及んでいる。

「本人の意思が確認できない時の手術の同意」では29機関（その他での回答含む）が、「ICUでの面会」では5機関（その他での回答含む）が、「終末期医療での看取り」では25機関（その他での回答含む）が、同性パートナーにおいてもそれぞれ可能としている。

終末期医療のガイドラインの「家族等」の範囲をスタッフ間で情報共有しているかについては、11.1%が共有していた。「終末期医療を提供していない」医療機関が101機関あり、診療科目により終末期医療と関連性の低い医療機関も多いと考えられる。

（文書取扱）

宮崎市 文化・市民活動課

電話：21-1835 FAX：20-1564

5 調査結果について

(1) 性的少数者についての研修に関すること

①研修や勉強会等を行っていますか。

	回答医療機関数	割合
行っている	2	1.2%
行っていない	158	97.5%
その他	2	1.2%
合計	162	100.0%

②今後勉強会等を行いたいと考えていますか。

	回答医療機関数	割合
行いたいと考えている	51	31.5%
行う必要はないと考えている	64	39.5%
その他	45	27.8%
無回答	2	1.2%
合計	162	100.0%

【主な意見】

- ア 時間的に対応できていない。
- イ 日頃より話題にして共通認識に努めている。
- ウ 具体的な資料や講師等がわからない。
- エ 必要に応じて研修を行う。
- オ 時間がとれて、機会があれば行いたい。
- カ 外来レベルでは不要と思う。高齢化したら必要かもしれない。
- キ 県・市・医師会等が行う研修会や勉強会があれば参加する。
- ク アンケートを答えているうちに必要と感じた。
- ケ 状況に応じて、問題が生じた時にスタッフ全員で議論していきたい。
- コ まだよくわからない。
- サ 今は必要ないと思うが、今後はわからない。
- シ 診察に来られてからの問題になると思うが、あまり考えたことがなく、スタッフに意見等を聞いてみる。
- ス 現段階では特に必要と感じていないし、スタッフもそういう方に対して偏見を持っていない。
- セ 医師会等で勉強会の案内があれば参加したい。
- ソ 性的少数者をよく理解している方が講師となるのであれば行いたい。
- タ 来院者の中かなりの数のLGBT者を認めるため、スタッフ皆、通常の方と同様に接している。
- チ これまで事例がなく具体的な予定はない。社会情勢をみながら検討していきたい。

(2) トランスジェンダーの方への対応に関すること

① トランスジェンダーの方の診察、または、診療に関する相談を受けたことがありますか。

	回答医療機関数	割合
診察をしたことがある。	57	35.2%
診療に関する相談を受けたことがある。	5	3.1%
診察および診療に関する相談を受けたことがある。	9	5.6%
これまで対応したことがない。	88	54.3%
その他	3	1.9%
合計	162	100.0%

② 外来受診の患者を受付で呼ぶ際はどのように呼んでいますか。

	回答医療機関数					
	全体		うち①で診療や相談有り		うち①で診療や相談無し	
苗字のみ	53	32.7%	29	40.8%	24	26.4%
フルネーム	77	47.5%	21	29.6%	56	61.5%
受付番号等の数字	7	4.3%	5	7.0%	2	2.2%
苗字・フルネーム	9	5.6%	3	4.2%	6	6.6%
苗字・受付番号等の数字	2	1.2%	1	1.4%	1	1.1%
フルネーム・受付番号等の数字	4	2.5%	3	4.2%	1	1.1%
苗字・その他	2	1.2%	2	2.8%	0	0.0%
フルネーム・その他	1	0.6%	1	1.4%	0	0.0%
苗字・フルネーム・その他	1	0.6%	1	1.4%	0	0.0%
その他	6	3.7%	5	7.0%	1	1.1%
合計	162	100.0%	71	100.0%	91	100.0%

【主な意見】

- ア 患児の希望に合わせている。
- イ 苗字で呼んでいるが、他の言い方を希望される場合は申し出るように掲示している。
- ウ 同姓の方が在院時はフルネーム。姓のみ希望の人はその要望通り。
- エ 状況による。通常苗字のみで、よくある苗字の時はフルネーム等。
- オ 希望者には受付番号
- カ 本人が番号を希望されれば番号で。
- キ ニックネーム
- ク 希望があれば、（性別が分かるような）フルネームを呼ばない場合もある。

③トランスジェンダーの方が受診時や入院時に通称名を使用することができますか。

	回答医療機関数・割合					
	全体		うち①で診療や相談有り		うち①で診療や相談無し	
通称名を使用することができる。	91	56.2%	40	56.3%	51	56.0%
通称名を使用することができない。	42	25.9%	20	28.2%	22	24.2%
その他	28	17.3%	10	14.1%	18	19.8%
無回答	1	0.6%	1	1.4%	0	0.0%
合計	162	100.0%	71	100.0%	91	100.0%

【主な意見】

- ア 未だ考えていない。
- イ 本人が希望して、問題がない名称であれば。ニックネームはダメ。
- ウ 特に決まりはないが、相談に応じることは可能。
- エ 呼ぶ際はできると思われるが、カルテ記入については本名が必要かと考える。
- オ まだ病院内で取り決めを行っていない。
- カ 保険証の名前なら使用可。
- キ 明確な規定はないが、相談によっては応じられる。
- ク これまでに対応したことがないので何とも言えないが、本人から希望があればそうする。
- ケ カルテは保険証の通りに作成する。
- コ 事例がないが、本人が希望すればそのように対応したいと思う。
- サ 希望があれば、番号のみで呼ぶことができる。
- シ 今まで考えた事が無かったが、使用できるように配慮したい。

④トランスジェンダーの方が希望する場合、健康保険証について性別の裏面記載ができることを、受付等のスタッフが情報共有していますか。

	回答医療機関数	割合
情報共有している	16	9.9%
情報共有していない	135	83.3%
その他	10	6.2%
無回答	1	0.6%
合計	162	100.0%

⑤トランスジェンダーで、性同一性障害の診断を受けている方が希望する場合、健康保険証記載氏名に通称名の使用ができることを受付等のスタッフが情報共有していますか。

	回答医療機関数	割合
情報共有している	14	8.6%
情報共有していない	139	85.8%
その他	9	5.6%
合計	162	100.0%

(3) 家族等への病状説明、手術の同意等に関すること

①病状の説明等への同意を許可している家族等の範囲について、あてはまるものを全て選択してください。

	回答医療機関数	割合
親族のみ	31	19.1%
親族・異性のパートナー	31	19.1%
親族・異性及び同性のパートナー	63	38.9%
親族・異性及び同性のパートナー・その他(1)	13	8.0%
親族・その他(2)	5	3.1%
親族・異性パートナー・その他(3)	1	0.6%
その他(4)	17	10.5%
無回答	1	0.6%
合計	162	100.0%

【その他(1)の主な回答】

- ア 親族も理解がある親しい友人等
- イ 患者本人の同意が得られている方
- ウ 後見人
- エ 友人・知人
- オ 後見人・ケアマネ・親しい友人
- カ 施設職員

【その他(2)の主な回答】

- ア 施設入所者の場合、施設職員
- イ 患者が希望される方

【その他(3)の主な回答】

- ア 患者の同意を得た方

【その他(4)の主な回答】

- ア 患者本人の同意と希望があれば、どなたでもOK。
- イ 保護者
- ウ 特に規定していない。一人暮らしの場合、友人や地区の区長でも許可している。
- エ 異性・同性のパートナーを含め、本人にとって大事な方であれば誰でも可。

②患者自身が意思表示できない場合に、手術の同意を得ている家族等の範囲について、あてはまるものを全て選択してください。

	全体		手術を行っている医療機関内	
	回答医療機関数	割合	回答医療機関数	割合
手術を行っている	67	41.4%		
親族のみ	26	16.0%	26	38.8%
親族・異性のパートナー	9	5.6%	9	13.4%
親族・異性及び同性のパートナー	24	14.8%	24	35.8%
親族・異性及び同性のパートナー・その他(1)	3	1.9%	3	4.5%
親族・異性のパートナー・その他(2)	2	1.2%	2	3.0%
その他(3)	3	1.9%	3	4.5%
手術を行っていない	93	57.4%		
無回答	2	1.2%		
合計	162	100.0%	67	100.0%

【その他(1)の主な回答】

ア 施設職員

イ 友人・成年後見人等

【その他(2)の主な回答】

ア 老人福祉施設・障害者施設責任者

【その他(3)の主な回答】

ア 異性・同性のパートナーを含め、本人にとって大事な方であれば誰でも可。

イ 成人の方

③ICUにおける面会を許可している家族等の範囲について、あてはまるものを全て選択してください。

	全体		ICUがある医療機関内	
	回答医療機関数	割合	回答医療機関数	割合
ICUがある	7	4.3%		
親族のみ	1	0.6%	1	14.3%
親族・異性のパートナー	1	0.6%	1	14.3%
親族・異性及び同性のパートナー	3	1.9%	3	42.9%
親族・異性及び同性のパートナー・その他	1	0.6%	1	14.3%
その他(1)	1	0.6%	1	14.3%
ICUがない	146	90.1%		
無回答	9	5.6%		
合計	162	100.0%	7	100.0%

【その他(1)の回答】

ア 異性・同性のパートナーを含め、本人にとって大事な方であれば誰でも可。

④終末期の患者の看取りができる家族等の範囲について、あてはまるものを全て選択してください。

	全体		終末期医療のある医療機関内	
	回答医療機関数	割合	回答医療機関数	割合
終末期医療を提供している	55	34.0%		
親族のみ	12	7.4%	12	21.8%
親族・異性のパートナー	13	8.0%	13	23.6%
親族・異性及び同性のパートナー	17	10.5%	17	30.9%
親族・異性及び同性のパートナー・その他(1)	7	4.3%	7	12.7%
親族・異性のパートナー・その他(2)	2	1.2%	2	3.6%
その他(3)	4	2.5%	4	7.3%
終末期医療を提供していない	101	62.3%		
無回答	6	3.7%		
合計	162	100.0%	55	100.0%

【その他(1)の主な回答】

- ア 家政婦等
- イ 患者本人の同意が得られている方
- ウ 家族が認めた方
- エ 友人・知人

【その他(2)の主な回答】

- ア 極めて親しい友人
- イ 患者の同意がある方

【その他(3)の主な回答】

- ア 本人が希望される方は許可している
- イ 異性・同性のパートナーを含め、本人にとって大事な方であれば誰でも可。

⑤厚生労働省が定めている終末期医療のガイドラインにおいて、「家族等」の範囲が定められていることについて、貴医療機関内のスタッフが情報共有していますか。

	回答医療機関数	割合
情報共有している	18	11.1%
情報共有していない	124	76.5%
その他	12	7.4%
無回答	8	4.9%
合計	162	100.0%

⑥性的少数者への配慮等について、既にされていることや工夫されていること、また、ご意見等があればご記入ください。

- ア 毎回、患者受付票に氏名を記入してもらうようにしており、通称名で記入された方はその名前で呼んでいる。
- イ 大切なことなので、今後考慮していきたい。
- ウ スタッフがわかるように、カルテにシールを貼っている。その人の希望に合い、人権を尊重することが一番大事と考えている。人間である限り健康が一番大事であることを、医療者として最重視し、いつでも来院しやすい対応を心がけている。
- エ 外来診療しか行っておらず、性的少数者であることが問題になったことがないのでわからない。
- オ 通称名等、事前に相談があれば応じることは可能。しかし、今まで性的少数者といったような患者様やそういった相談はきたことがない。
- カ まだ開院して1年のため、そういった対応が全くできていないが、配慮が必要であると思う。
- キ 相談窓口を設置している。
- ク 日常診療では全く考えたことがなかった。
- ケ 自己申告を受けた方は看護師へ伝え、希望の扱いを行う程度。
- コ 性同一障害患者に対する手術を行っている。
- サ マイノリティに対して全ての医療機関が対応する必要はないと考える。地区、エリアに科別に対応医療機関を明示したらよいのではないか。それよりも経済的弱者への対応が先ではないか。
- シ 性的少数者の方々の配慮については、どのように対応するかスタッフ間での話し合いができていないので、当院はまだ対応は難しい状況です。
- ス 現在まで該当する患者が来院されたことはないが、柔軟に対応していきたいと思っている。
- セ 在宅医療を中心にしているクリニックだが、入院設備はない。外来にも後期の方が多く、トランスジェンダーの方は受診されたことはないので、あまり参考にはならないと思う。終末期の看取りに関しては、その方が一番信頼され、介護されているのであれば、家族同然だと思う。家族、親族の関係性が崩れている今日では、誰に看取られたいかだと思う。
- ソ どのような配慮があれば安心して受診できるのか教えていただきたい。特に偏見はないので、言ってもらえれば対応する。言うことからハードルが高いのでしょうね。上記の例を参考にする。応援している。
- タ 受付窓口にて相談がしやすいように、対応を配慮していきたい。
- チ 一人一人を患者として診察している。性的少数者どうのこうのと考えてもいない。
- ツ これまでは、性的少数者の方が来院されたことがないので、意識することもなかった。情報も不足している。しかし、今後は可能性がある的意识を持って、窓口・診察・処置等、考えていく必要があると感じた。
- テ 性的少数者に限らず、本人が受診しやすい配慮は必要なので、その方の要望に応じて行っている。
- ト 事例が少なく、何かあればこれから検討する。

- ナ 一人患者様がトランスジェンダーで、性別の記載について変えてほしいと希望があった。しかし、（医療）診療において性別は大切な要因の一つとなり、理事会で話し合いも行ったが、やはりそのままの性別記載でいくことになった。患者様に寄り添いたい気持ちはあるが、（医療）診療においては性別は大切な情報なので、対応が難しい。
- ニ 特に何もしていない。カルテの性別も今まで全く工夫もせずに過ごしていた。少し学習したい。以前はよく受診されている方もいたので、気持ちよく受診できるよう色々具体的なアドバイスもいただけるとありがたい。
- ヌ 相手（患者）を馬鹿にしたり、特別扱いするような口の聞き方をしない等、気を使っている。
- ネ 当事者からの申し出がある場合は、名前の呼び方や、待合室と出入り口を一般患者と分ける等行っている。
- ノ 一般の外科・内科クリニックなので、ほとんどいない。たまに受診されるが、皆様堂々とされているので、特に工夫等していない。
- ハ 受付窓口・患者相談窓口にて来院時から個室に通し、個別対応。